

ユネスコスクール実践事例

千歳市立緑小学校

校長 武田 淳

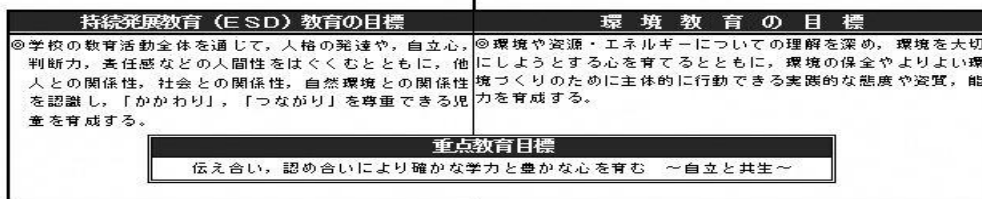
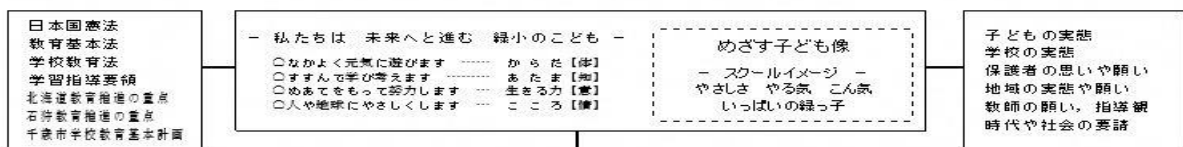
担当 内海 洋(教頭)

1. 活動の趣旨

本校校区には、清流千歳川が流れ、住宅街でありながら豊かな自然も存在している。また、学校の近隣に大きな公園を持つなど、自然についてのE S Dを学ぶのに適した場所もある。これらを活用し、環境と自分たちの生活のかかわりについて理解を深めさせることができる。本校では、ユネスコスクールの活動を通して、自然にかかわる体験を通した“自然環境・生態系保全”の心の育成を図っていく。

2. 活動・全体計画

緑小学校 持続発展教育（E S D）及び環境教育の全体計画



持続発展教育の視点	
【ユネスコスクールとして地域に根ざした持続発展教育の充実を図る。環境教育は、持続発展教育に包含されるものである。】	
取り組む教育内容	育てたい力
<ul style="list-style-type: none"> ○環境教育 ○エネルギー教育 ○人権教育 ○アイヌ文化学習 ○福祉学習 ○平和学習 	<ul style="list-style-type: none"> ○持続可能な発展に関する価値観（人間の尊重、多様性の重視、非排他性、機会均等、環境の尊重等） ○自分で考える力 ○他者と協力して物事を進める力 ○自ら実践する力 ○情報収集分析能力 ○コミュニケーション能力

学年の目標		
低学年	中学年	高学年
<ul style="list-style-type: none"> ○身近な自然や環境に親しみ、栽培や飼育などの活動を通して、身の回りの自然環境に関心をもつことができる。 ○植物や身の回りのものを大切にすることができる。 ○様々な考えや文化があることに気づき、認めることができる。 ○身の回りには、様々な人がいて、互いに認め合い生活することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な自然や環境に触れ、資源やゴミなどについての問題に気づき、環境保全について考えることができる。 ○動植物の栽培、飼育に責任をもって行い、資源を大切にすることができる。 ○文化の多様性に気づき、それぞれの価値について考えることができる。 ○様々な人がいることを理解し、互いに尊重することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○動植物の生命を尊重し、進んで栽培や飼育などの活動を行うことができる。 ○地球問題の改善について考えることができる。 ○学校や地域のよりよい環境づくりに進んで取り組むことができる。 ○文化の具体的な事象を通して、それぞれの価値について考え、尊重することができる。 ○様々な人と積極的に関わることを通して、人間尊重の精神について考えることができる。

持続発展教育及び環境教育と関わる主な事項					
学級活動	児童会活動	学校行事	道徳	総合的な学習の時間	各教科
<ul style="list-style-type: none"> ・カヌー学習 ・異学年交流活動 ・蛙の稚魚飼育・放流 	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル活動（エコキャップ・リングブル） ・書き損じ葉書（世界寺子屋運動） ・省エネの取り組み ・牛乳パックリサイクル 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動 ・人権教室 ・平和集会 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値の深化 ・自然愛、動植物への愛情 ・生命尊重 ・節度・節制 ・公德心、規則の尊重 ・郷土愛 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ文化学習 ・青葉公園の植物についての学習 ・千歳川についての学習 ・栽培活動 ・日本の伝統文化についての学習 ・福祉学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科において身の回りの環境・アイヌ文化に触れる活動 ・社会科における循環・共生・有限性・保全についての学習 ・理科における循環・共生・多様性・有限性・保全・生命尊重についての学習 ・社会・理科における地球規模の問題についての学習 ・家庭科における循環・共生・有限性・保全についての学習

※E S Dとは 持続可能な社会づくりの担い手をはぐくむ教育。地球規模で起こっている環境、貧困、人権、平和、開発といった現代社会の様々な課題を自らの課題としてとらえ、身近なところから取り組むことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことをめざす学習や活動。

3. 活動事例

- ①カヌー学習：3年生以上が行う活動であり、パラリンピックカヌー日本代表元監督の鳥畑氏（校区に在住）をお招きして、毎年行っている。「カヌー学習」という名称でカヌーにも乗るが、目的は「自然の怖さや水の力を知り、準備をして付き合うこと」を体験することである。



左の写真は、ライフジャケットを着用した5～6年生の児童が千歳川で流され、それを保護者が川岸からロープで救助する練習である。また、3～4年生

は、同様の活動をプール内で行っている(右の写真)。一方、職員への研修も事前に行い、こちらは毎年千歳川で実施している。

- ②アイヌ文化学習：本校の総合的な学習の中心教材である。アイヌの遊びから始まり、サケに対するアイヌの人々の思いや知恵を学ぶ。他の生き物の命をいただくことの意味について考えられる児童を育てて行きたい。



左の写真は「マレク漁」というアイヌの漁法を体験している様子である。このあとサケを解体し、「チェプオハウ」という汁物の料理にして食べるまでの一連の流れが学習となる。

学習を通して、アイヌ文化が物や命を大切にし、無駄にしない思想が随所に見える。そしてそれは、自然や地球を壊さず、人間もその一部となって生きながらえていくESDの一つの答えともいえる。児童には、そのすばらしさに気づいてもらいたい。

4. 成果と課題

学習を通して、未来を生きる子どもたち自身に、自然環境の中で生活していることや生物多様性について関心や理解が深まっているととらえている。写真や映像ではわからないダイナミックな体験ができているのは、地域にそのような環境があり、機会を与えてくださるおかげで、とてもありがたいことだと思う。

一方、環境保全のため自分たちでできることを考え実行するなど、持続可能な社会を作ろうとする態度の育成については、リサイクルの活動などを行っているものの、本校の学習においては実施が少なく、今後の課題となる。

また、国際理解等の実践など、幅を広げることも今後の課題ではあるが、自然や生命への敬意、そしてアイヌ文化の考えを基に思考できる児童が育てばESDにつながるのではないかと考えている。

学校名	千歳市立緑小学校
住所	〒061-0074 北海道千歳市緑町4丁目4-1
電話	0123-23-4107
e-mail (教頭)	es-midori.d@ed.city.chitose.hokkaido.jp